

海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。



佐々 信行
さっさ のぶゆき

啓明学園初等学校 校長

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、ワシントン補習授業校を経て、現職。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校
東京都昭島市拝島町 5-11-15
代表： 042-541-1003
国際教育センター： 042-546-5881
www.keimei.ac.jp



イマージョンプログラムの教室

「イマージョン・プログラム」とは

私の知り合いにも、海外赴任のために突然英語で生活をしなければならなくなったとき、中学校から大学まで受けて来た英語の教え方に疑問を持ったという人がたくさんいます。日本人の TOEFL の成績がアジアの中でも最低かそれに近い方だというデータもあります。（近いうちに TOEFL の内容が新しくなり、文法の問題がなくなって、日本人にはますます不利になるという話も聞きました。）概して、日本の学校の英語教育の評判はかんばしくありません。保護者の方々は、帰国したら、お子さんに英語をどのように学習させたらいいかといういろいろ考えておられることでしょう。

子どもに、いつも家庭で使っている以外の言語をマスターしてほしいという願いをもつのは、日本の親だけではありません。学校の言語教育をどのように改善したらよいかという議論は、いつでも、どこでも行われています。その中から、いろいろな提案がなされ、実際に行われてきました。私がバージニア州でかかわってきた「イマージョンプログラム」と呼ばれる方法もそのひとつです。最近、この言葉が日本の学校や幼稚園教育の場面でも聞かれるようになりました。ただ、この言葉がが正確に理解されないで使われていることも少なくないようです。言語を習得させる方法として「イマージョンプログラム」とは、どんなものなのかを、実際の現場の視点でご紹介してみたいと思います。

immersion を辞書で引くと、「浸すこと」という意味が見つかります。液体の中にどっぷり浸けてしまうということです。つまり、学習させようとする言語の中に、子どもをどっぷり浸らせてしまおうということです。キリスト教の洗礼の授け方に、水の中に体を浸すやり方があるそうですが、これも immersion です。

イマージョンプログラムの発想は、英語であれば、英語の世界の中に、子どもをどっぷり浸からせてしまえば、退屈な文法の講義や実際の役に立たない形式的なドリルを繰り返したりしなくても、「自然に」英語を習得していこうということなのです。日本人の子どもが日本語を習得するのに五段活用についての知識は必要ないわけですから。

保護者の海外赴任のためにアメリカに来て、現地校に入った子どもは、まさにこの immersion の状態にあります。（ESL